



To acknowledge the duty that accompanies every right"  
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

# THE OSAKA CENTENNIAL

C/O OSAKA YMCA  
 1-5-6 TOSABORI, NISHIKU,  
 OSAKA, JAPAN

2009年3月 No.322  
 Chartered July 20, 1982

主 題 Y's THEME (2007~2008)	
センテニアルクラブ会長	：『新たな感動を、再び』
東京セントラルクラブ会長	：『活躍しよう Be Active』
国際会長	：『希望の灯となろう』
アジア会長	：『希望の灯となろう』
西日本区理事	：『思いやりを持ってワイズライフを！』
中西部部長	：『喜びを共にし、苦しみを分かち合おう』

クラブ役員	Officers
会長	： 大村 肇
副会長	： 山中 秀男
書記	： 石津 雅人
会計	： 中村 幸枝
ネット会長	： 山村 利子
Y連絡職員	： 鍛冶田 千文

## Biblical Message of March

## March Club Meeting

『EF/JWF』

### 3 月 第 1 例 会

主に望みを置く人は新たな力を得、驚のように翼を張って上がる。走っても弱ることなく、歩いても疲れない。

(イザヤ書 40章31節)

日時：2009年3月18日(水) 18:30~20:30

場所：ホテルグランヴィア大阪

司会：山中 秀男 君

- |                 |         |
|-----------------|---------|
| 1. 開会点鐘         | 大村 肇 会長 |
| 2. ワイズソング       | 一 同     |
| 3. ゲスト紹介        | 大村 肇 会長 |
| 4. 聖句朗読         | 福永 嘉彦 君 |
| 5. 今月の強調活動      | 山田 孝彦 君 |
| 6. 「ハワイ不思議発見」   | 中村 茂高 君 |
| 7. 「ハワイ訪問記」     | 坂本夫妻    |
| 8. お誕生祝い・ニコニコ献金 | 一 同     |
| 9. 閉会点鐘         | 大村 肇 会長 |

### 3 月 第 2 例 会

日時：2009年3月25日(水) 18:30~20:30

場所：大阪YMCA土佐堀会館4階

3月お誕生日：谷川メネット(17日)、中村メネット(25日)、松浦メン(22日)

例会担当：3班：石津、隅田、谷川、中村(隆)、松浦、山村君

メネット会から落語会で販売したバザーの売り上げの一部、2万円の寄付がありました。

## 一人ひとりが光る

鍛冶田 千文

09年2月某日。ある高校での卒論発表会。3年生の中で手をあげた生徒が発表しました。卒論のテーマは過去、現在、未来の自分史。生徒達がそのことを考えるのははじめてではありません。入学したときから「なぜこの高校に来たか？」を問われ、自分の過去を振り返り、今の自分の状況と立ち位置を確認します。そこから力を蓄えることができます、少しずつ希望を語るようになっていきます。

ある生徒は小2から登校を行き渋り、まもなく不登校となりました。彼は、小学生時代、すべての感情をなくした、何も感じなくなったと言いました。中学時代の一人のカウンセラーとの出会いは彼の人生を変えました。治療でない視点で彼に接してくれたことから彼は高校進学を考えました。不登校歴7年から全日制の高校を選んだのです。不安でいっぱい入学当時から、安心できる場人間らしい感情を取り戻した、と彼は言います。勉強は大変づらかったけれど、漢字が読めるようになり書物を読み出したこと、単語さえ分からなかった英語を今では読解し、勉強の楽しさをわかるようになったと語ってくれました。7年間閉ざしていた心を少しずつ開き、同年齢の仲間達と青春を駆け抜けた彼は、カウンセラーを目指すため4月から大学生になります。

この高校は大阪YMCA国際専門学校 表現・コミュニケーション学科。一人ひとりが光ります。

## 【クラブ統計 Statistics】

2009年2月	種 別	第1例会	第2例会	BFポイント	ニコニコ献金
在籍会員 18名	メ ン	14名	7名	2月 350g 現金 0円 現 手 累計：1,512g 切 金 累計：1,000円	2月： 17,100円 (オークション ： 24,300円) 累計： 158,500円
例会出席 13名	メネット	6名	1名		
うちキーキャップ	ビジター	0名	0名		
0名	ゲ ス ト	1名	0名		
出席率 77.7%	合 計	21名	8名		

今年も受難節を迎えております。この時に当たって、第2イザヤが示しているように、非常に苦難を通しての救いを確信すると共に、この詩的に表現された唯一にして創造者である神に対する信仰の強烈さを学ぶことに努めたいものであります。これは現在の私たちへの貴重な示唆であると思えます。

聖句選 コメント：福永 嘉彦

## 2月第1例会報告

日時：2009年2月18日(水) 18:30～20:30  
場所：ホテルグランヴィア大阪20階

寒さのピークが過ぎたとはいえ、風の冷たさが身にしみる第一例会は食事の出ないTOF(タイム・オブ・ファスト)のため、ケーキと飲み物で食事は献金に充てられました。

本日のメインプログラムは、まず先月の「イスラエル訪問」の続編で、谷川寛さんが、イスラエルYMCAのことを説明。この建物がエンパイア・ステート・ビルを設計したA・ハーマン氏によって建てられたことを述べました。「あなたの予算を超える部屋であっても、エルサレムで内も外ももっとも美しくエレガントな建物」と評するだけに、その威容はなかなか見事なものようでした。

次にお嬢さんの舞さんを伴い、中村幸枝さんが「米国留学を旅して、母の立場から」というテーマで、母の子を思う気苦労を語っていただきました。2005年から3年半、米国・アラバマ州のサウスアラバマ州立大学に留学した舞さんの波瀾な体験を披露。2005年5月にフロリダ半島を襲ったベニス、カトリーナのハリケーンで、舞さんが地域の集会所に避難を余儀なくされたこと。友達4人で旅したルート66で起こした交通事故で、ヘリで病院に搬送されたこと。イラク戦争でPTSDに苦しめられた友人のことなど。舞さんはさまざまな困難にもめげず、上位15%の優等生に贈られる「インターナショナル・オーナーズ・ササエティー」のメンバーに選ばれるなど大変名譽な受章に、私たちもあたたかい拍手を送りました。

その後、アンケートでも好評を博した「センテニアル寄席」の反省会に移り、藤原正巳さんから約6万円の収益があったことの報告がありました。食事の時間が無い分、充実した時間をたっぷり満喫することができました。



卓話をされる中村幸枝さんと舞さん

卒業証書と「インターナショナル・オーナーズ・ササエティー」のメダル



## 2月第2例会報告

日時：2009年2月25日(水) 18:30～20:00  
場所：土佐堀YMCA

出席者：石津、大村、中村茂、藤原、松浦、山田、山中の各メンと山村メネット 8人

### 協議事項

- (1) 4月例会の卓話 新保正秋さん予定
- (2) 「ロールバックマラリア」献金の件  
先日のセンテニアル寄席で、8,200円の募金があり、クラブから補てんをして、1口900円×11口分の10,000円を拠出する。
- (3) 来年の「センテニアル寄席」は、好評につき、実施する方向で考える。貴重なファンド作りにもつながる。
- (4) 表現コミとの交流は成果が上がってきている。継続していきたい。
- (5) 5月23日(土) 次年度に向けて戦略会議を行う。場所は、阪急・桂駅、山中次期会長宅で。メンバーの持ち寄り。その前に4月22日(水) 18:15～、役員会議を宝塚造形芸術大学梅田キャンパス(DDハウス横)で行う。
- (6) 円高による打撃が大変大きく、韓国からの留学生が苦境に立たされている。中西部の各メンバーから1口1,000円の寄付を募り、その他の中西部合同新年会の余剰金、中西部の特別事業引当金の一部など合わせて100万円を贈る予定。すでにセントラルクラブは10万円を拠出を決めている。

(中村 茂高)

## 3月YMCAニュース

### 早天祈禱会

日時 3月27日(金) 7:30～8:30  
\* 毎月第三金曜日  
証し 大川四郎 氏(大阪YMCA協力会員)

### ボランティア養成講座

発達障害児対象のサポートクラスのボランティア養成です。

日時 4月18日(土) 10:00～16:00  
内容 LDおよびその周辺の子どもの基本理解  
サポートクラスでの援助のしかた  
ボランティアとは

問い合わせ 土佐堀YMCAサポートクラス  
Tel.06(6441)1123 Fax...06(6443)7544  
(鍛冶田 千文)

大阪センテニアルクラブのホームページ

<http://m-ishizu.com/ys/>

新春センテニアル寄席は、2月7日の午後2時半、土佐堀 YMCA 9階ホールで行われました。出演者は、桂吉弥さんと弟弟子の桂佐ん吉さんのお二人。会場には、立ち見が出るほどの盛況で150人余り。中村茂さんの司会で進められました。当日、吉弥さんは、ABCラジオに出演した後、会場にかけつけてくれました。前座は、佐ん吉さんが、「手水まわし」を演じられ、続いて吉弥さんが「チリトテチン」を話し、NHKテレビ「ちりとてちん」の場面を彷彿とさせ、観客を笑いの渦に巻き込んでいました。その後一旦休憩に入り、センテニアルから、バザーの品物やマラリア撲滅キャンペーン募金の紹介がありました。



高座の桂吉弥さん

吉弥さんが登場し「くしゃみ講釈」を演じました。再度大きな笑いをよんだのは言うまでもありません。当日は、YMCAの表現コミュニケーション学科の生徒さんも家族で参加。皆さんも大満足で、次回開催の期待の声もたくさん寄せられました。 (新保 正秋)



満席の落語会会場

2月BFニュース

切手提供者

石津、鍛治田、松浦、藤原、福永、山田、隅田、田中君 計350g

今月の殊勲賞

石津君 170g

1月17日から一週間ホノルルで、過ごしました。いつものながらの気候とヌアヌクラブの方々のホスピタリティに癒された一週間でした。今回特に印象に残っているのはハロルド クワハラさんが退役軍人の身分だからこそ入れる Hicam Air Force Base に連れて行ってくださったことです。飛行機でホノルル空港に着陸する時に整然とした美しい街並みが見えるのですがあれがこのBase なのだと初めてそのとき気づきました。街の中にはいるには、まずIDを見せて入ります。広大な敷地内はまるで、森のようで、その中に各階級に応じて軍人住宅があります。学校や役所のような施設もありますが、商店のようなものは、見かけませんでした。パールハーバーに面した地域は、公園になっていて行きかう軍の艦船や、停泊中の潜水艦を見ることもできます。海外での過酷な任務に就かなければならない軍人達がこの地に戻ってきたらとても癒されるだろうと思う場所でした。

ワイズのメンバーだからこそ 知りえたホノルルのワイキキとは違う一面でした。感謝!

写真は次ページ、メイさん、ラリーさんと

(坂本 千春)

Club Activities ( February, 2009)

On February 18, the club's February meeting was held at the Hotel Granvia Osaka, with a total of 21 Y's men, Y's menettes, and a Y'sling in attendance. We were all happy to see Miss MAI NAKAMURA who had graduated from a university in the USA with great honor among our attendees.

With its emphasis on CS/TOF/FF activities this month, Y's man SAM FUJIWARA briefed the meaning and purpose of these programs.

The highlight of the February meeting was the speech made by Y's man KAN TANIKAWA. He continued his informative talk on the current Israeli situation, following his speech at our January meeting.

Another highlight of the meeting was the report made by Y's menettes YUKIE NAKAMURA and her daughter, MAI NAKAMURA on MAI's study experiences at the University of Alabama, Mobile, Ala. Last December, MAI successfully finished her study at the university with the Golden Key Club Award which was only given to the students with excellent study record. YUKIE and MAI spoke MAI's precious experiences during her study in Mobile, which started from August 2005. We all admired great record she achieved and shocked to hear her involvement in the terrible traffic accident.

Y's man MASAACKI SHINPO reported the result of the questionnaire gathered at the last Rakugo-kai, the gathering of the traditional comic story telling. As many audiences requested to hold it on regular basis, We decided to do so. Y's man SAM FUJIWARA reported the proceeds of the gathering which amounted to Yen 59,305. It was donated to our club fund. Y's menettes TOSHIKO YAMAMURA, president of the Y's menettes' committee of our club, donated Yen 20,000 to the club which was the earning from the sales of their hand craft materials at the gathering. Yen 17,500 was collected at the meeting for the club's niko niko (smiling fund), together with the sheets of the commemorative New Year stamps valued at Yen 24,800. Yen 10,400 was also collected for the Family Fast fund.



ニコニコ・メッセージ



【Messages from the Club Members】

会員からのメッセージ

クラブメンバーが一致して落語会を成功裡に終えられたことは嬉しいことでした。(石津 雅人)

落語会も無事に終りほっとしています。今日は谷川さん、中村さんの楽しい話が聞けてよかった。(大村 肇)

イスラエルの話もアメリカの話も大変興味深かったです。もっと聞きたかったです！(鍛治田 千文)

先月は例会を欠席して、ハワイ・オアフ島に行ってきました。ヌワヌクラブの皆さんはお元気で皆さんと楽しい一時を過ごすことができました。(坂本 千春)

イスラエルにもアメリカ本国にも行きたいです。しばらくはおあずけです。(坂本 哲朗)

イスラエルの話とアメリカの話をお聞きしました。平和な日本はいいなと思いました。吉弥の落語会にはお世話になりました。今後とも宜しく願います。(新保 正秋)

先日のセンテニアル寄席はとても楽しい会でした。叔母も伺い喜んでおりました。私も吉弥さんの地獄八景亡者の戯れをぜひ聞きたいと思っております。次が楽しみです。有難うございました。(隅田 恵子)

今日もワイズ例会に出席して楽しい時を過ごすことが出来て喜んでます。(田中 穰二)

中村幸枝さんの「ハラハラ旅行」楽しく聴きました。(谷川 寛)

タイム・オブ・ファストの月に、これを再び確認することができて感謝です。一食でも抜くということは贅沢になれた身にはきつい、しんどいことです。(谷川 有美子)

今日は雨水でした。おひなさまを出す早くお嫁に行けるそうです。出して来ましたよ。(中村 幸枝)

例会に参加させていただくのは、もう何年ぶりでしょう。今日は皆様のお顔を拜見できて良かったです。(中村 舞)

食事は質素でしたが、谷川さんと中村幸枝さんの豊かな話を聞くことができました。(中村 茂高)

今年も私たちの先輩上月英子さんから年賀切手14枚送って下さいました。昨年同様私の名で出すように言われまして、私の7枚と合わせ提出しました。上月様に感謝します。(福永 嘉彦)

CS、TOF、FFの月、食事はなかったけれどメン、メネットのみのアットホームな素晴らしい例会でした。大きく成長された中村コメットも米に留学を終えて出席され大変感激しました。落語会はインフルエンザのため欠席を余儀なくされましたが、皆様のお力で大成功を収められ心より感謝申し上げます。(藤原 正巳)

谷川さんのイスラエルのお話と中村さんの留学のお話し大変おもしろかったです。ありがとうございました。(松浦 和子)

谷川メンのイスラエルYMC Aの話しを聴いてYMC Aの世界での拡がり活動に改めて感激しましたね。中村メネットのアメリカ探訪談、舞さんに寄せる母親の愛情をしみじみと感じとりました。(松浦 孝次)

先日の桂吉弥さんの落語、秀逸でした。今後が益々楽しみです。中村舞さん今日は有難うございました。又、例会にお越しください。(三浦 直之)

今夜は食事のない分、時間たっぷりに中村メネットの愛娘を独りでアメリカ留学させてスリリングな体験談を聴きただただ感心するしかありません。(山田 孝彦)

谷川寛さんのイスラエルの話、中村親娘の留学体験記、興味津々、勉強になりました。(山中 秀男)

イスラエルのお話、アメリカのお話、楽しく聞かせていただきました。先日のセンテニアル寄席お疲れ様でした。楽しかったです。(山村 利子)



後 記

「ダ・ピンチ・コード」を超えたという前評判で、ドイツ作家・フランク・シェッツィングが4年を費やし書いた海洋冒険小説「深海のイール」が話題にのぼり、大型映画化の期待が集まっているそうです。内容は、深海にいる「イール」と呼ばれる知的生命体が、蟹や猛毒をもつ藻、クジラなど生物兵器を意のままに操って人類を攻撃するという途方もない長編 SF。その中で、人間がその「イール」にコンタクトを取ってみようじゃないかという場面があり、それならば「人間に知性があるのかどうか、連中(イール)は知っているのか？」と逆に自分たちに問うシーンがあります。

中の一人が「もちろん、船が壊された。我々の造船技術をやつらは知らないはずはない」と答えるのですが、それに対し「複雑な構造物を作れることが知性の証明にはならない。シロアリの巣は建築の最高傑作だし、1997年、IBMのコンピュータはチェスの試合でチャンピオンを破った。シロアリやコンピュータが知生体とは思われない」と誰かが反発します。ここで人間は「果たして自覚をもった知性体なのか」どうか、つまり「知性を自覚しているのか」と問われることとなります。

このくだりを読んだ時、ふと昨今の、政争に明け暮れ低迷する政治や日常茶飯事に起こる事件を見て、とても「人間」が自覚のある知性体とは思えない今日このごろです。(中村 茂高)